

改訂版

はじめよう！ 道徳科



1

道徳科って
どんな教科なの？

3

「考え、議論する
道徳」ってどんな
授業なんだろう？



2

授業づくりは、
どのように
行えばいいの？

4

道徳科における
評価は、
どうするの？

なぜ、教科化されたの？

道徳が教科化された背景には、全国で発生した深刻ないじめ問題などが関係しています。本来、道徳は、いじめの防止に向けた重要な役割を担うものですが、読み物の登場人物の気持ちの読み取りで終わったり、表面的な発言や記述に留まったりするなどの課題が指摘されていました。

いじめ問題が深刻な状況にある今こそ、道徳教育の重要性を改めて認識し、その一層の充実を図るため、平成27年3月に学習指導要領が一部改正され、教科化へと至ったのです。

どのようなことが求められているの？

道徳科の授業では、いじめ問題をはじめとする現実の様々な問題に対応できる資質・能力を育むことが一層求められます。そのためには、例えば、「いじめは許されない」などを教師が一方的に説明するのではなく、「なぜ、いじめをしてはいけないのか？」などについて、児童生徒が自分自身の問題として向き合い、考え、議論するような授業を積極的に行うことが大切です。

現実のいじめの問題に対応できていなかったのね。



①「特別の教科 道徳」とは

教科化で変わったこと

○採択された教科書の使用

・主たる教材として、年間指導計画に位置付けて活用します。

○道徳科における評価

(詳しくは、④「道徳科における評価とは」を参照)

教科の捉え方(小学校)

各教科	特別の教科である道徳	外国語活動	総合的な学習の時間	特別活動
国語	特別の教科 道徳(道徳科)	外国語活動	総合的な学習の時間	学級活動
社会				児童会活動
算数				クラブ活動
理科				学校行事
生活				
音楽				
図画工作				
家庭				
体育				
外国語				

変わらないこと

引き続き努めてほしいことでもあるんだね。

道徳科は位置付けが特別なんだね。

○道徳教育の基本的な考え方

- ・週1時間実施する道徳科の授業を要として、学校の教育活動全体で道徳教育を行います。
- ・内面的な資質である*1道徳性を養うことを目標とします。

道徳教育の評価は道徳科の評価とは違うのね。

○道徳教育における評価

- ・学校生活における具体的な行為に現れたよさは、これまでどおり指導要録の「行動の記録」「総合的な所見」に記載します。

道徳教育と道徳科の関係

学校の教育活動全体で行う道徳教育



家庭や地域における道徳教育

学校生活や各教科等では、「体験」とおとして、道徳科では、「考え、議論すること」とおとして、道徳性を育みます。

○「要」としての授業の実施

- ・原則として学級担任が行います。学校・学年内で協力することが大切です。
- ・年間35時間(週1時間)を、確実に実施します。
- ・各学年に位置付けられた*2内容項目を全て実施します。

○家庭や地域社会との連携

○児童生徒が本音で語り合う道徳授業の実践

○郷土の特色を生かした地域教材等の活用

「ぐんまの道徳」などね。

各学校で特に重要であると決めた重点内容項目を扱うのよ。

例えば中学校は、年間35時間を22の内容項目を扱うから、残りの13時間はどうするのかな？

*1 道徳性… { 道徳的判断力… 善悪を判断する能力
道徳的心情… 道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情
道徳的实践意欲・態度… 道徳的判断力や道徳的心情によって道徳的行為を実現しようとする傾向性

*2 内容項目… 人間としてよりよく生きる上で学ぶことが必要なことを短い文章で表したもの
(例:相手のことを思いやり、進んで親切にすること)

② 授業づくりの流れ

例えば、「A 善悪の判断、自律、自由と責任」において

価値観

本時で扱う内容項目について授業者が特に大切にしたいことを学習指導要領等を基に明らかにします。



価値観

自ら正しいと信じているところから、よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする意欲を高めたい。

生活科、体育科等、様々な場面で、善悪の判断に関わる指導を行う

児童生徒観

授業者の価値観に関連する児童生徒のこれまでの実態と、実態から求められることなどを明らかにします。

児童生徒観

児童生徒の実態

よさ 善悪の判断と、よいと思うことを進んで行うことの大切さは理解できている。

課題 周りの友達に左右され、よいと思うことを進んで行えないところがある。

実態から求められること

人に左右されずに、よいと思うことを進んで行おうとする意欲を高めたい。

価値観、児童生徒観を受け、**考えさせたいこと**を明らかにします。



考えさせたいこと

よいと思うことを進んで行うことのよさや難しさ

教材観

考えさせたいことに基づき、1時間の授業で教材をどのように活用するのかを構想します。

教材観

教材「ほく、よびにいつてくる」

よいと思うことを進んで行うことのよさを自分との関わりで考えさせるために、ほんすけの行動の理由について考えさせたい。

よいと思うことを進んで行うことのよさを感じたときの気持ちを想像させたい

中心発問

ほんすけは、どんなことを考えて、「ほく、よびにいつてくる。」と言って走り出したのでしょうか。



【あらすじ】

主人公のほんすけたちがサッカーをしているところへほんたがやってくるが、数が半端になってしまうため、ほんきちにかくれるよう指示される。ほんたは気付かずに去ってしまうが、ほんすけはほんたのことが気になる。ほんすけはほんきちに「ほく、よびにいつてくる。」と言って走り出す。

指導方法の工夫

発問構成 役割演技 振り返りシート 等



価値観からスタートすること大切なんだよ。

つい教材観からスタートしちゃうんだけど、それじゃダメなの？



③「考え、議論する道德」とは

考える

- ・問題意識をもつ
- ・自分との関わりで考える
- ・自己を振り返る

議論する

- ・多面的・多角的に考える
- ・学級経営の充実を図る

(協働する、対話する)

「考え、議論する道德」への転換を図るために、導入、展開、終末の各段階において、以下のようなことに留意して指導の工夫を図りましょう。

子どもたちが安心して異なる意見を言い合える授業にするには、互いを認め合えるような学級づくりをすることが大切です。

指導過程	「考え、議論する道德」のチェックポイント
導入	<input type="checkbox"/> 児童生徒が、本時で扱う※1 道徳的価値について問題意識をもって授業に臨んでいるか。
展開	<input type="checkbox"/> ※2 道徳的価値の理解を、自分との関わりで深めているか。 <input type="checkbox"/> 物事を一面的な見方から、多面的・多角的な見方へと発展させているか。
終末	<input type="checkbox"/> 深まった道徳的価値の理解を基に、これまでの自己を振り返り、気付いた自分自身のよさや課題から、よりよい自己の生き方への思いや願いを深めているか。

主体的に考えられるように、問題意識をもたせることが大切だね。

友達と協働したり対話したりすることをとおして、物事を自分ごととして考えたり、様々な視点で考えたりする過程だね。

よりよい自己の生き方につなげていくための工夫をする過程だね。

次ページでは、「はばプラⅡ」に基づく実践例を紹介します。

「自分」と「自己」ってどちらがうのですか？



自己を見つめる

「自己を見つめる」というのは、自分自身を第三者的な立場から見つめ、考えるということなのね。

※1 道徳的価値…よりよく生きるために必要とされるもの

※2 道徳的価値の理解

- 価値理解…道徳的価値のよさ、素晴らしさ(友達と仲良くすると本当に楽しいな。)
- 人間理解…道徳的価値の実現の難しさ(お年寄りに席を譲りたいけど勇気がいるな。)
- 他者理解…道徳的価値についての感じ方、考え方の多様さ(あいさつするときにも、様々な思いがあるんだな。)

「はばたく群馬の指導プランII」に基づく実践例

- ・「**②授業づくりの流れ**(2ページ)」を参考に、明確な指導観をもって授業を構想することが大切です。
- ・中心発問と補助発問を精選し、児童生徒の考えを深めることが大切です。(次ページ参照)

学習例 小学校 第6学年「C 公正、公平、社会正義」

ICT活用の場面とよさを
チェック!



①本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。

めあて:誰に対しても同じように接するために大切なことは。

誰に対しても同じように接していますか?



児童の道徳的価値に対する実態について、アンケート調査の結果を掲示し、問題意識をもてるようにする。

「いいえ」が予想より多いな。同じように接することは大切なのに…。

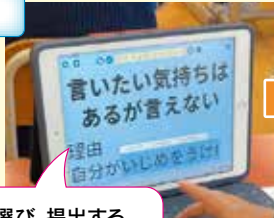
②教科書の教材文の範読を聞く。

友達のうわさ話を「それはちがう。」と言えなかった主人公。そのうわさ話によって仲間外れになる友達…。

③教材を通して道徳的価値についての考えをもち、交流する。

あなたが主人公だったら「ちがう」と言える?

言いたいけど言えないな。
みんなはどうなのかな。



立場によって色分けしたテキストを選び、提出する。



全員の考えを比較・共有し、多様な考えに触れる。

中心発問

(ある日の帰りの会で「うわさで人を判断してはいけない。」と発言する級友の姿を見て) 主人公はどんな気持ちから「言わなければ」と思ったのでしょうか。

全体やグループで話し合う。



何もできなかった自分がはずかしい。

みんなの前で発言して友達を助けよう。

補助発問

本音を引き出しながら、道徳的価値についての考えを広げたり、深めたりする。

言った方がいいけど、やっぱり少し怖いから言えないかも。

難しくないの?本当にできるのかな?

難しいかもしれないけど、見て見ぬふりはよくないと思う。

④道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。

誰に対しても同じように接するために大切なことは何だろう。

周りの雰囲気や情報にまどわされないで正しいことをする。

相手のことを考えて、自分が正しいと思った行動をする。

うわさ話や間違った情報を信じて相手を傷つけないようにする。

⑤本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

児童の振り返りより

自分の考えをしっかりとって周りに流されないことが大切。今までは怖くてできなかったけど、これからは仲間外れやよくないことが起きていたら、勇気をもって注意していきたい。



本時の振り返りを端末に入力したり、ワークシートを撮影して提出したりする。

評価へ

子どもの考えを
深めるために

中心発問 と 補助発問

中心発問

- 本時のねらいに迫るために多様な考えを引き出す。
- 中心発問は教材の仕掛けを生かし、次のように考える。

教材

人物の道徳的変容の前

中心発問
のありか

変容が起きた
感動が呼び
起こされた

人物の道徳的変容の後

「意味」を問う

出来事、出会い
言葉、行動、物

添えられた
「心」を問う

中心発問

||
行為や言葉の裏にある
「意味」や「心」を問う。

例

- ◆「～～のとき、〇〇はどんな気持ちだったのだろう。」
- ◆「Aとの出会いは彼に何を気付かせたのだろう。」
- ◆「なぜ、〇〇は涙を流したのだろう。」
- ◆「自分が□□の立場だったらどうだろう。」

子どもたちの発言から
たくさんの考えを共有で
きるけれど、どうすれば
考えが深まるのかな？



補助発問

- 児童生徒の本音を引き出し、考えを深める。

例

- ◆ 考えの理由や根拠を明らかにする
「何でそう考えたの?」「それは、どういうことかな?」
- ◆ 考えをゆさぶる
「みんなはそう言うけど、本当にいいのかな?」
「この考え方で、こんな行動できるのかな?」「難しくないのかな?」
- ◆ 別の視点から考える
「〇〇のような場合は、どんな気持ち?」
「反対の立場から考えるとどうなるのかな?」
- ◆ 複数の考えを比較して考える
「AとBで共通すること(考え方)はどんなことかな?」
「AとBでどちらの気持ちが強いだらうか?」

中心発問で引き出した
多様な考えを基に、補
助発問で考えを深める
ことが大切です。



道徳教育に関する参考資料

- 群馬県教育委員会 各課発行・提供資料(道徳教育に関する資料)

<https://gunma-boe.gsn.ed.jp/>

道徳 群馬

検索



- 文部科学省 道徳教育

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/

- 「道徳教育アーカイブ」～「特別の教科 道徳」の全面実施～

<https://doutoku.mext.go.jp/>

「道徳教育アーカイブ」
では、「考え、議論する
道徳」の授業づくりの
参考になる授業映像も
見るができます。



④ 道徳科における評価とは

① 数値による評価ではなく、記述式です。

② 他の子どもとの比較による評価ではなく、子どもがいかに成長したかを積極的に受け止め、励ましていく個人内の評価です。

③ 一人一人の子どもの学習の様子や学習の成果の優れたところや成長が見られるところを評価します。

見える

授業での姿

授業における発言、記述など

見えない

心の内面

授業を通して養われる道徳性

評価方法

- 観察 聞き取り
- 会話
- 作文 レポート等
- ワークシート

道徳性は心の内面のもので目に見えないわけだから、安易に評価するわけにはいかないものね。

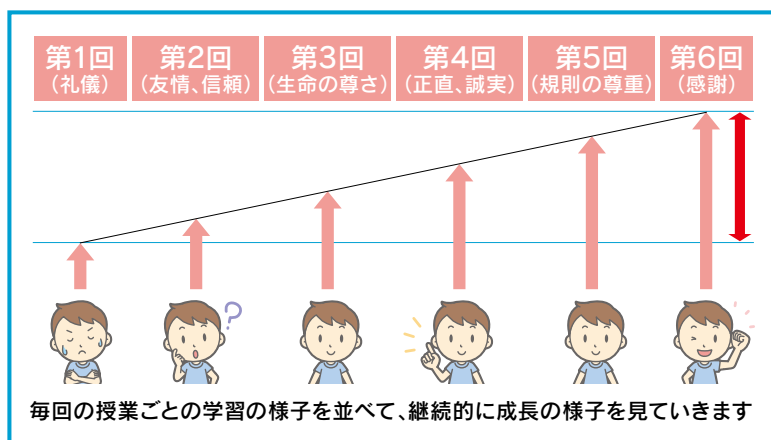
親切にすることの大切さについて、生活経験をもとに発言している。

授業での「様々な見方や考え方ができたか」「自分ごととして考えられたか」などの目に見える姿を評価するんだね。

本当の親切とは、相手の立場に立って、相手の気持ちや思いを考えてすることであるから、今後はもっと相手の立場に立った親切をしていきたいという態度が育っている。

④ 学期や年間ごとに、個々の内容項目ごとではなく、大くくりなまとまりを踏まえた評価を行います。

※指導要録には、評価欄を設定し記載します。



「学期や年間での成長」ということは、特に成長が見られた授業のことを記述してはいけないの？

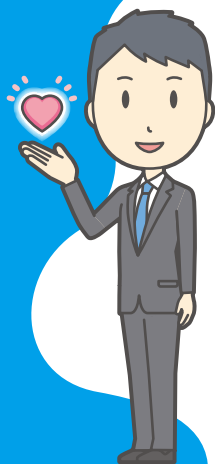
学期や年間での成長の様子を認めつつも、特によさが見られた授業があれば、そのことを認める記述を入れることがあってもいいんだよ。

⑤ 調査書(内申書)については、中学・高校入試において、情報を提供したり、合否判定に活用したりするようなことはしません。

内容項目の学年段階・学校段階の一覧表

	小学校キーワード	小学校第1学年及び第2学年(19)	小学校第3学年及び第4学年(20)	小学校第5学年及び第6学年(22)
A 主として自分自身に関	善悪の判断、自律、自由と責任	(1)よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。	(1)正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。	(1)自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。
	正直、誠実	(2)うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること。	(2)過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。	(2)誠実に、明るい心で生活すること。
	節度、節制	(3)健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わかまをしないで、規則正しい生活をする。	(3)自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をする。	(3)安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。
	個性の伸長	(4)自分の特徴に気付くこと。	(4)自分の特徴に気付き、長所を伸ばすこと。	(4)自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。
	希望と勇気、努力と強い意志	(5)自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。	(5)自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。	(5)より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。
	真理の探究			(6)真理を大切にし、物事を探究しようとする心をもつこと。
B 主として人との関	親切、思いやり	(6)身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。	(6)相手のことを思いやり、進んで親切にすること。	(7)誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること。
	感謝	(7)家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。	(7)家族など生活を支えてくれた人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。	(8)日々の生活が家族や過去からの多くの人の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。
	礼儀	(8)気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。	(8)礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること。	(9)時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。
	友情、信頼	(9)友達と仲よくし、助け合うこと。	(9)友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。	(10)友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。
	相互理解、寛容		(10)自分の考えや意見を相手に伝えるときにも、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。	(11)自分の考えや意見を相手に伝えるときにも、謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。
C 主として集団や社会との関わり	規則の尊重	(10)約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。	(11)約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。	(12)法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切に、義務を果たすこと。
	公正、公平、社会正義	(11)自分の好き嫌いとらわれないで接すること。	(12)誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。	(13)誰に対しても差別をすることなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。
	勤労、公共の精神	(12)働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。	(13)働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。	(14)働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。
	家族愛、家庭生活の充実	(13)父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つこと。	(14)父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合っって楽しい家庭をつくること。	(15)父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。
	よりよい学校生活、集団生活の充実	(14)先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくすること。	(15)先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合っって楽しい学級や学校をつくること。	(16)先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合っってよりよい学級や学校をつくることにも、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。
	伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	(15)我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。	(16)我が国や郷土の伝統と文化を大切に、国や郷土を愛する心をもつこと。	(17)我が国や郷土の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。
	国際理解、国際親善	(16)他国の人々や文化に親しむこと。	(17)他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと。	(18)他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わり	生命の尊さ	(17)生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。	(18)生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。	(19)生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。
	自然愛護	(18)身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接すること。	(19)自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること。	(20)自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。
	感動、畏敬の念	(19)美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。	(20)美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。	(21)美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと。
	よりよく生きる喜び			(22)よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる。

	中学校キーワード	中学校(22)
A 主として自分自身に関	自主、自律、自由と責任	(1)自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。
	節度、節制	(2)望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。
	向上心、個性の伸長	(3)自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。
	希望と勇気、克己と強い意志	(4)より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。
	真理の探究、創造	(5)真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。
B 主として人との関わり	思いやり、感謝	(6)思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。
	礼儀	(7)礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。
	友情、信頼	(8)友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。
	相互理解、寛容	(9)自分の考えや意見を相手に伝えるときにも、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。
		(10)法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。
C 主として集団や社会との関わり	遵法精神、公德心	(11)正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。
	公正、公平、社会正義	(12)社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。
	社会参画、公共の精神	(13)勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。
	勤労	(14)父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。
	家族愛、家庭生活の充実	(15)教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合っってよりよい校風をつくることにも、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。
	よりよい学校生活、集団生活の充実	(16)郷土の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。
	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	(17)優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること。
我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	(18)世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。	
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わり	国際理解、国際貢献	(19)生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。
	生命の尊さ	(20)自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること。
	自然愛護	(21)美しいものや気高いものに感動する心をもち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること。
	感動、畏敬の念	(22)人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだすこと。
	よりよく生きる喜び	



ふかめよう！ 道徳科



本資料は、「はじめよう!道徳科」(平成30年3月県教育委員会作成)を踏まえ、文部科学省・県教育委員会の指定校・指定地域における次の3つに係る取組を紹介したものです。

- ①教育活動全体で行う道徳教育
- ②「考え、議論する道徳」の授業
- ③道徳科の評価

道徳教育の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

道徳科の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(中学校:広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の生き方(中学校:人間としての生き方)についての考えを深める学習を通して、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

道徳教育は、道徳科を要として学校教育全体を通して行うものです。



道徳教育と道徳科の目標の統一が図られ、分かりやすくなりましたね。

群馬県教育委員会 各課発行・提供資料

群馬県 道徳科

検索

平成31年3月
群馬県教育委員会

1 教育活動全体で行う道徳教育

藤岡市立藤岡第二小学校の例

キーワード

1. 指導計画の作成

4つの視点から1つずつ重点内容項目を決めます。

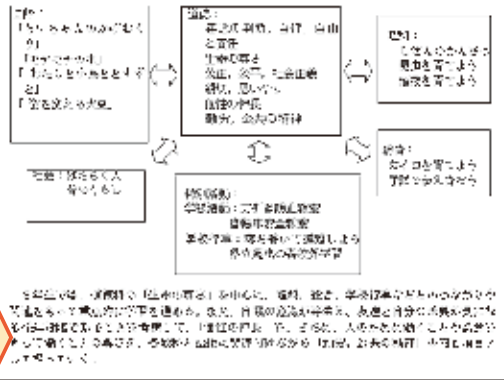
- A: 善悪の判断、自律、自由と責任
- B: 親切、思いやり
- C: 公正、公平、社会正義
- D: 生命の尊さ

- 道徳教育を補充、深化、統合するものとして、各内容項目と他教科等との関わりを重視します。
- 郷土資料「ぐんまの道徳」を効果的に位置付けます。
- 重点内容項目の教材については、教材の特性や児童の実態に応じて、指導時期を決めます。

他教科との関連、全体とのつながりを考えて



道徳科で学習したことを生かした取組



- 学校行事は、道徳科の授業で学んだことを実践できる場です。例えば、運動会においては、「最後まであきらめずに、力を出し切ろう」(希望と勇気、努力と強い意志)「ルールを守って競い合おう」(規則の尊重)といった道徳的価値との関連を図ることができます。

2. 全ての教員による道徳科の授業

教材研究・授業実践

- 全教員がいずれかの学年に所属し、教材研究する時間を計画的に設定します。
- 学習指導要領・系統表で内容を確認し、ねらいと評価を決め、導入や中心発問を考えます。
- 体験的な学習や問題解決的な学習など、児童の実態に合わせて効果的な指導方法を協力して考えます。
- 同一日に同学年の授業を組むとともに、家庭への通信の作成などを輪番で行い、業務改善を図ります。

校内環境の整備

- 教材資料を整理保管し、次年度の授業に生かします。
- 指導案、板書計画、ワークシート、家庭通信、場面絵等の作成をローテーションで分担し、電子データは共有します。



授業改善の工夫

- 授業研究会では、内容を絞って話し合い、共通理解を図ります。
- 他校の授業を参観した際には、報告する場を設け、効果的な指導方法や新しい視点での授業構想について情報を共有します。

3. 地域・家庭との連携

- 道徳通信の発行を通して、毎回の授業の様子を家庭に伝えています。
- 保護者・地域の方に対して授業公開し、連携して取り組みます。
- PTA講演会をとおして、親子で考える機会を意図的・計画的に設け、共通理解を図ります。



キーワード

1. 指導計画の作成

学校教育目標、生徒の実態を踏まえて、重点内容項目や準重点内容項目を設定します。

学校教育目標 自ら学び、創造し、実践できる 心豊かな生徒の育成



【道徳科で目指す生徒像】 進んで他者とかわかり、よりよい生き方を追求する生徒

全体計画、年間指導計画、別葉の改善・充実、調査統計等



【重点内容項目】

A: 向上心、個性の伸長 B: 思いやり、感謝
C: よりよい学校生活、集団生活の充実



【準重点内容項目】

B: 相互理解、寛容 C: 社会参画、公共の精神
C: 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 D: 生命の尊さ

家庭や地域との連携・啓発 (道徳だより、道徳教育講演会)



2. 全ての教員による道徳科の授業

右図のように、学級担任と副担任によるローテーション道徳を計画します。担任20:副担任15の割合で授業を分担します。年度当初と年度末は、学級づくりの観点から学級担任を中心に授業を行います。

ローテーション道徳を、次の2つの方法で実施します。

- ①特定の教員が提案した授業案を基に、各教員が各学級で授業する。
- ②授業案を作成した教員が各学級を回って授業する。

授業づくりや授業を分担することで、時間に余裕が生まれました。



繰り返し授業すると、授業改善にもつながりますね。



▲他学級の学級担任による授業



▲学年主任と学級担任による授業

学年	教科書	西暦	出典	1学期	2学期	3学期	学年末	計
<1学期>	4月1週	1 山あきのつづきやほらついで	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
	4月2週	2 鶴いやしの	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
	4月3週	3 ノーブルの	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
	4月4週	4 小中	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
	4月5週	5 山あきのつづきやほらついで	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
	4月6週	6 鶴いやしの	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
	4月7週	7 山あきのつづきやほらついで	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
	4月8週	8 鶴いやしの	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
	4月9週	9 ノーブルの	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
	4月10週	10 小中	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
	4月11週	11 山あきのつづきやほらついで	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
	4月12週	12 鶴いやしの	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
<2学期>	4月13週	13 天朝の天	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
	4月14週	14 天朝の天	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
	4月15週	15 鶴いやしの	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
	4月16週	16 鶴いやしの	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
	4月17週	17 鶴いやしの	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
	4月18週	18 鶴いやしの	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
	4月19週	19 鶴いやしの	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
	4月20週	20 鶴いやしの	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
	4月21週	21 鶴いやしの	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
	4月22週	22 鶴いやしの	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
	4月23週	23 鶴いやしの	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
	4月24週	24 鶴いやしの	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週
4月25週	25 鶴いやしの	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週	
4月26週	26 鶴いやしの	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週	
4月27週	27 鶴いやしの	中学生道徳「道徳教育」	○	○	○	○	▲1週	

ローテーション道徳による指導計画

★ 道徳だより

第1号
H29.7.19発行
桐生市立中央中学校
道徳科発行

本校では、「進んで他者とかわかり、よりよい生き方を追求する生徒の育成」を目標として、学校全体で道徳教育を進めています。その一環として、道徳科の授業では、新聞やその他の資料を使い、課題について生徒がいろいろと考え、考えを深められるようにしていきたいと考えています。これから、本校においてどのような道徳教育が行われているのかを「道徳だより」を通してお知らせし、ご家庭との連携も深めていきたいと考えています。各ご家庭でも、ぜひ読んでみてください。

1学期「三六五×十四日分のありがとう」
病気のために十四歳で亡くなった主人公が得た手紙を題材に、家族について考えました。

2学期「青柳のブロー〜世界一清潔な空へ」
カリスマ演劇員の青柳幸三郎さんの体験を通して、動物・植物について考えました。

7月11・12日の授業参観において、全学年の全学級で道徳の授業が行われました。どの学年も意欲的にみんなが考える様子が見られました。ここに、各学年の授業の様子をご紹介します。

3学期「二つの手紙」
動物園の入園券が、入園終了時間を過ぎているにもかかわらず、駅いぬへの関係者から入園させ、雑居の雑居からは感謝されたが、疑問を抱いたことにより会社をやめることになってしまったという資料を通して、まもりを守ることを考えました。

3. 地域・家庭との連携

生徒・保護者による合同の講演会を開催したり、道徳だよりを発行したりし、積極的に情報発信することで、家庭や地域との連携を図ります。

生徒・保護者対象道徳教育講演会
「10年後、君の仕事はあるのか？」
教育改革実践家／元リクルートフェロー
藤原和博 様



家庭・地域へ発信した道徳だより

②「考え、議論する道徳」の授業

小学校低学年

邑楽町立中野小学校 第2学年
 主題名：きまりの大切さ 内容項目：C 規則の尊重
 教材名：『きまりのない学校』 <問題解決的な学習の授業例>



指導のポイント

課程 主な学習活動 (○発問 ◎中心発問 ◇問い返し)

1. 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。
 ○みなさんのまわりにはどんなきまりがありますか。守れていますか。
 S:廊下を走ってはいけない。交通安全のきまり。
 S:だいたい守れている。守れないこともあった。

【問題の発見】

めあて:「きまりは、 」ここに入る言葉は何だろう。

- 道徳科におけるめあてとは、本時で扱う道徳的価値へと方向付けるもの。
- 問題の探究で自分事として考えられるよう、身近なきまりについて想起させるための発問を行う。「守れているか」と問うことで、きまりに対するこれまでの自分について考え、問題意識をもてるようにする。
- 穴あめにするなど発達段階に応じて、ねらいとする道徳的価値への方向付けになるよう、工夫する。

2. 道徳的な問題を探究する。

○先生にたくさんしかられたとき、あきらはどんな気持ちだったかな。
 S:怒られていやだな。
 S:どうしてきまりがたくさんあるのかな。
 ○「何でも好きなことをやっていいですよ」と言われたら、みんなならどうする。

【問題の探究】

◎夢からさめたあきらさんが、「ああ よかった」と言ったのは、どんな気持ちからでしょう。
 S:きまりがないと学校は大変なことになってしまうから、きまりがあつてよかったな。
 S:きまりってとても大切なんだ。夢でよかったな。

◇きまりは誰のためにあるのかな。
 S:きまりは、みんなのためにあるんだな。

○あきらさんは、どんなことを考えて学校に行ったのでしょうか。
 S:これからはきまりを守ろう。
 S:やっぱりきまりって大切なんだ。

【探究のまとめ】

○「きまりは、 」のあとに続く言葉を考えましょう。
 S:きまりは、みんなのためにある。なぜなら、きまりがなくなってしまうとみんなが困るから。



▲学級全体での交流

▲ペアでの交流

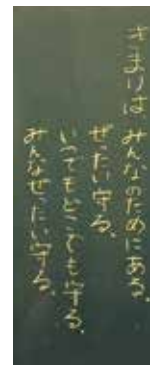
- 教材の中に入り込めるように、場面絵だけを見せて読み進める。
- しかられたあきらさんの気持ちを考えさせることで、普段感じているはずの「きまりに対する窮屈さ」を自覚できるようにする。
- 児童と途中でやり取りすることで、内容を確認しながら読み進める。
- きまりはなくてもよいと考えていた前半の主人公の気持ちを取り上げて比較させることで人間理解を深め、きまりに対する色々な見方・考え方があることを捉えられるようにする。
- 中心発問で引き出した考えをさらに多面的・多角的に発展させるために、きまりの大切さについて問い返し、考えさせる。
- 自分の考えを伝えやすくするために、ペアによる意見交流を取り入れる。

3. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

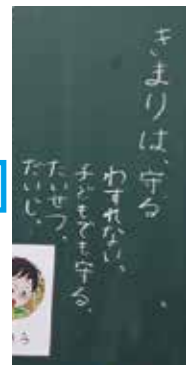
【振り返り】

○これからどんなことに気を付けたいですか。
 S:きまりがないと危ない。
 S:安全のためにきまりがある。

- 導入での「きまりは、 」の後の言葉を考えることにより、きまりに対する見方の広がりを確認できるようにする。
- 個々の児童に対してそれぞれの考えを肯定的に受け止め励ます言葉をかける。



<終末での変容>



<導入での実態>

評価の視点

きまりがもつ意味について考え、約束やきまりを守ることについての理由を考えている。



〈板書例〉

うわべの言葉だけでなく、本音で思う存分に語れることが「考え、議論する道徳」につながります。そのためには、道徳の授業はもとより、他の教科でも自分の考えを伝えることができるよう指導することが大切です。そして、発言への意欲を支えるのは安心して本音を伝えることができる学級の雰囲気です。

藤岡市立藤岡第二小学校 第6学年
 主題名：いじめを打ち切る正義 内容項目：C 公正、公平、社会正義
 教材名：『わたしのせいじゃない』 <問題解決的な学習の授業例>

指導のポイント

課程 主な学習活動 (○発問 ◎中心発問 ◇問い返し)

導入

1. 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。

○いじめについてどう思いますか。なくさなければいけないと思いませんか。起きてからなくせばいいのかな。なくせないのかな。
 S: いじめは絶対いけない。
 S: いじめはいけないことなのに、どうしてなくなるのかな。

【問題の発見】

めあて: いじめを起こさせないために大切なことは何だろう。

- 児童の実態から問題意識をもたせられるよう導入の工夫をする。アンケートの結果を紹介し、自分の日常を振り返らせる。
- いじめをなくしたいという思いを確認し、価値の方向付けを行う。
- 「○○について、どう思いますか。それは、どうしてですか。」などと問い、意識のずれや本音と建前の実態を探っていく。



展開

2. 道徳的な問題を探究する。

○いじめの原因は何でしょうか。問題だと思ふ点とその理由を言います。
 S: 自分のクラスで起きたことなのに、気にしていない。
 S: 他の人と違うところがあるからといって、差別している。
 S: 人はそれぞれ考え方が違うのに、それを受け入れていない。

▲問題点の視覚化

○差別や見て見ぬふりなどの態度をとってしまうのはなぜでしょう。

【問題の探究】

◎いじめをなくすために、大切なことはなんだらう。
 S: 自分だけでなく、他の人のことも考える思いやりの気持ち。
 S: いじめを止める勇気が必要。
 S: 周りに流されない強い心を持つ。

○みんな、いじめをなくしたいと思っているのに、なぜ止められないんだらう。
 S: 自分もいじめられると思うから。
 S: 周りの人のことを気にするから、どうしても勇気が出せない。

◇どういう気持ちがあれば、人に流されずにすむんだらう。
 S: どれだけ辛いか考える。
 S: いじめをやめさせる強い気持ちが必要。
 S: 自分を信じて正しいと思うことをする。

▲ホワイトボードを活用した話し合い

- 教材のおおまかな内容を提示しておくことで、時間を短縮でき、児童の思考を途切れさせずに内容に入ることができる。
- 問題解決的な学習では、自分事として考えられるよう問題点を視覚化し、構造的な板書を工夫する。
- いじめをしていることに、気付いているのか、なぜ気付かないのか、それは何が問題なのかを考えさせる。



- 中心発問で、問題解決的な学習を深めるために、この場面に自分がいたらいじめを止められるか尋ね、どうして止められないのかを考えさせる。
- 主体的に考えられるように、ワークシートに記述して自己決定させる。グループ活動で、様々な問題点について、話し合い、多面的・多角的なもの見方や考え方ができるようにする。
- いじめをなくすという、実現の難しさ(人間理解)について考えさせる。

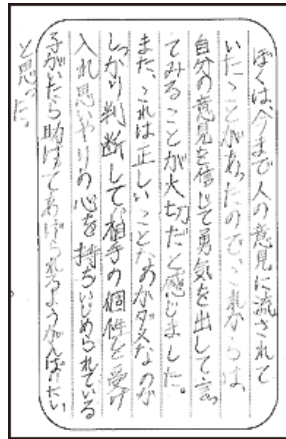
終末

3. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

【振り返り】

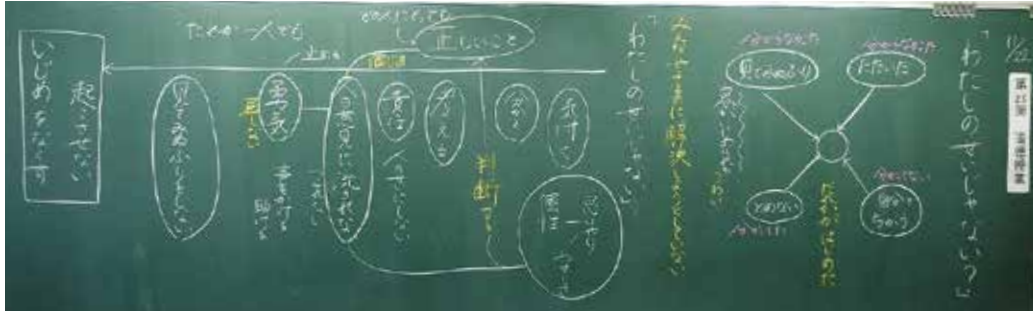
○友達の意見を聞いて考えたことや感じたことを振り返りましょう。
 S: いじめをなくすために、自分も相手も大切にして、違うところを受け入れられるようにしていきたい。

- 児童の考えをよく聞き、児童が道徳的価値に迫る考えを述べたタイミングを逃さず、問い返しをする。
- 関連図に示して板書することで問題点や心の動きを焦点化してねらいに迫り、学級で共有する。
- 何を深く考えさせたいのかという、評価の視点を明確にしておく。
- 導入の実態に戻ったり、意識のずれに触れたりして、教材からは離れて自分事として考えさせる。



<児童のワークシートへの記述>

評価の視点
 公正・公平な態度や社会正義を貫くことについて、多面的・多角的に捉え、自分事として考えている。



〈板書例〉

桐生市立中央中学校 第2学年
主題名：自分を探そう 内容項目：A 向上心、個性の伸長
教材名：『私は十四歳』 <問題解決的な学習の授業例>

指導のポイント

課程 主な学習活動 (○発問 ◎中心発問 ◇問い返し)

導入

1. 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。

○みなさんは自分のよさや自分らしさについてどう考えていますか。
みなさんのアンケート結果を見ましょう。
S：全くないとは思わないけど、よく分からない。
S：友達から言われて、自分のよさに初めて気が付いた。

【問題の発見】

めあて：自分らしい生き方をするにはどうしたらよいだろう。

○事前に学習テーマに関するアンケートを実施し、その結果を提示することで、本時のねらいとする道徳的価値へ方向付け、学習する必要感や問題意識をもてるようにする。
○アンケート結果は見やすいようにグラフ化し、タブレットとテレビモニターを活用して提示する。

○イラスト等を工夫し、教材文の内容について短時間で確認を行い、主人公の置かれている状況や問題について共通理解できるようにする。
○「私」の心境の変化が分かるように、発問の流れや思考の動きが分かる板書を行う。(板書例)

○主人公に自我関与させ、心境の変化について考えさせることで、道徳的価値についての理解を深められるようにする。

展開

2. 道徳的な問題を探究する。

T1はイラスト等を黒板に掲示し、T2は範読をする。

○「私」はなぜバスケットボール部を辞めたのでしょうか。
S：目標を失ったから。
S：バスケットボールで認められなくなってしまったから。



○「新たな自分に出会うためのチャンス」と考えた「私」はどんな気持ちだったのでしょうか。
S：前向きな気持ち。

【問題の探究】

◎「私」の中で何かが変わり始めた。少しずつ私の姿が見えてきたのは、なぜでしょう。

S：自分の思いをダンスで表現できたことで自信がついた。
S：視野を広げ自分を見つめ直したから。
S：自分を表現する喜びに出会えて、変わることができたから。
S：輝いている自分を目指そうと思えたから。
<短冊黒板を使っでの比較>



【探究のまとめ】

○自分らしい生き方についてどんなことを考えましたか。
S：うまくいかないことがあっても自分のよさを見付けたい。
S：前向きになれるきっかけは大切だと感じた。

○中心発問では、「なぜそう考えたのか」「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」などを考えさせる。
○考えた理由を問い返したり、その後の行動を考えさせたりして、一人一人の考えを深めさせる。
○日頃から、ペアやグループで話し合う機会を設定し、話しやすい雰囲気や本音で語り合える環境づくりしておく。
○考え、議論する時間を確保するため、ワークシート等に自分の意見を記入する際には、簡単にメモする程度でよいことを伝えておく。

○中心発問で考えた意見をグループで発表させたり、他者の意見への疑問や共感する点などを議論させたりすることを通して、様々な意見に触れさせる。
○グループで考えたことを学級全体で共有し、比較や分類をしたり、意図的に取り上げてもう一度考えさせたりして、多面的・多角的な見方へと発展させる。

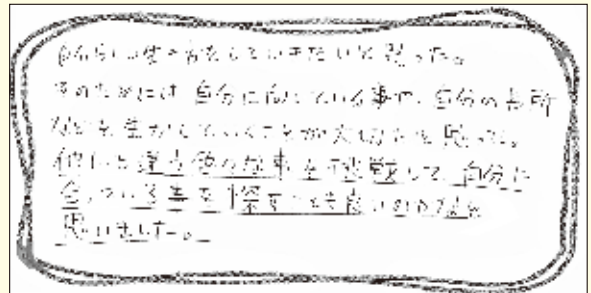
終末

3. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

【振り返り】

○これまでの自分を振り返り、これからどのように生活していきたいと思えますか。
S：自分も視野を広げて、自分を見つめ直してみたい。
S：輝いている自分を目指していこうと思った。

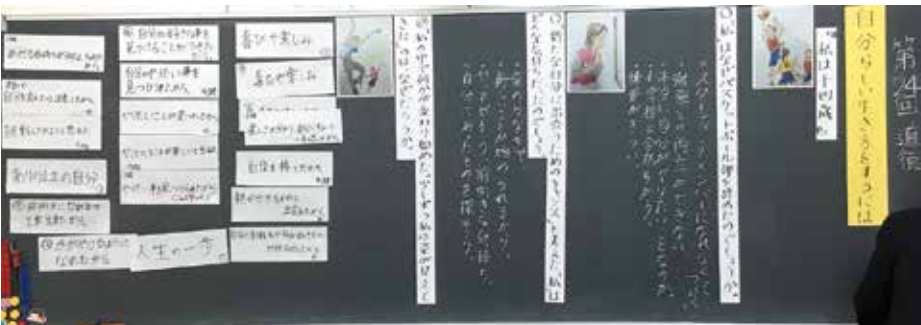
○この時間に考えたことや今までの自分とこれからの自分について考えたことを発表させることで、充実した生き方についての理解を自分との関わりで深め、多面的・多角的な見方ができるようにする。



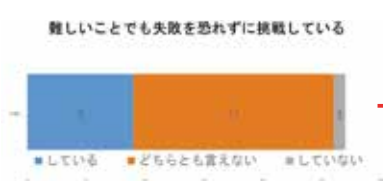
<生徒のワークシートへの記述>

評価の視点

- ・「私」の心境の変化を考えることにより、充実した生き方についての理解を自分との関わりで深めている。
- ・「私」の心境の変化を話し合うことにより、自分らしい生き方について、多面的・多角的な見方ができている。



板書例

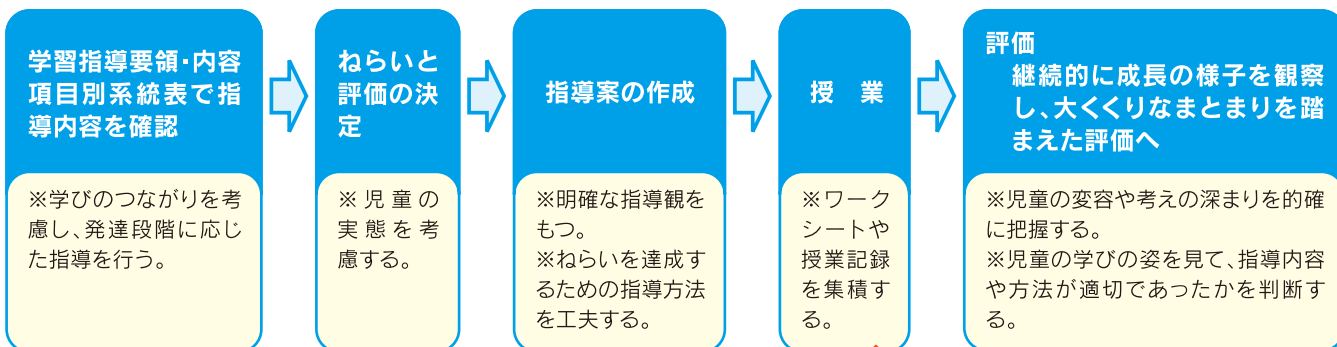


▲導入で紹介したアンケート結果

3) 道徳科の評価

評価例 (1) 藤岡市立藤岡第二小学校

◆指導と評価の一体化を図り、評価を指導に生かし、児童の成長につながるようにしていきます。



◆以下のような視点をもって授業を構想するとともに同じ視点で評価します。

多面的・多角的に考えるために

- ・ねらいとする道徳的価値の様々な面を考える。
- ・道徳的価値を支える様々な根拠を考える。
- ・様々な登場人物の立場で考える。
- ・焦点を絞ったり、視野を広げたりして、考える。
- ・時間の経過とともに変化する気持ちを考える。
- ・人間の強さや弱さ等を捉えて考える。

自分との関わりで考えるために

- ・教材の登場人物に自分を置き換えて考える。
- ・教材の問題点等を自分事として受け止めて考える。
- ・日常生活や学校生活を想起しながら考える。
- ・自分の生活を見つめ、振り返りながら考える。
- ・自分だったらどうするかなどを考える。



児童のワークシートへの記述

今日の道徳の時間を振り返って、考えたこと、感じたことを書こう。

「今までは、自分だけ、自分の考えを述べてきたけれど、今日は、相手の気持ちも考えてみることにしました。自分と相手の立場を切り替えて、相手の気持ちになって考えてみることで、自分とは違う考えがあるかもしれないと気づきました。これからも、相手の気持ちを考えていきたいです。」

評価例 (2) 桐生市立中央中学校

◆道徳科の授業における学習状況や、道徳科の授業を積み重ねたことによる成長の様子を継続的に把握して評価に生かします。

<評価のポイント>

道徳科では、
 ①「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか」 ②「道徳的価値の理解を自分との関わりで深めているか」の2つの視点で評価します。
 授業中の生徒の様子及び生徒のワークシートの記述内容を見取り、右図の生徒名簿型の評価シートに記録します。
 この評価シートを35時間分綴じ込んだ教師用評価ファイルを作成します。学年職員間で授業担当時にリレー形式で引き継ぐこともできます。

<留意点>

教師用評価ファイル及び生徒の道徳ファイル、学期の最後に行う生徒自身の振り返りをもとに、大きくりなまとまりを踏まえた個人内評価(認め、励ます記述)をしていきます。

学年・学期	氏名	道徳的価値の理解		学習状況の把握
		① 一面的な見方から多面的・多角的な見方へ	② 自分との関わりで深めているか	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

◆1学期(左)と比較し、2学期(右)では、より自分との関わりで道徳的価値をとらえている様子が見て取れます。

今日の道徳の時間を振り返って、考えたこと、感じたことを書こう。

「自分の気持ちと、相手の気持ちのズレが少しはマシになったと感じた。これを感じていくためには、相手の立場に立って考えてみるのが大切だと思った。相手への感謝をおおむねにせずにはいられないと思った。」

今日の道徳の時間を振り返って、考えたこと、感じたことを書こう。

「昨日には見えないようなことが、とても大切なことだと感じた。表面上のやさしさは、言葉でもできるけれど、相手の内側からやさしさを出せるようになるのが、本当に相手に伝わるのだと思う。自分の心をもつことが相手に届く時には、むしろ自分を思いやることも必要だ。相手のことを考えることから、これから思いやりを大切にしたい。」

評価例 (3) 邑楽町教育委員会(小学校)

日々の道徳科の授業(①、②)から、学期での成長を評価(③)します。(大きくりなまとまりを踏まえた評価)

1年生の例 道徳科での見取りから、学期ごとの実際の評価について、① → ② → ③ の順で示しました。

①道徳科の授業 10月
教材名:『みみずくとおつきさま』
内容項目: A 希望と勇氣

授業での児童の振り返り

ゆうきをだすときは、いっぱいあるとおもいました。いままでできなかったことをもう1かいゆうきをだしてやってみようとおもいました。まちがっていることに、ゆうきをだすのはおかしいとおもいます。

教師のコメント

ゆうきをだすのはステキだけど、やってはいけないことやまちがっていることにゆうきをだすのはおかしいとかがえたんだね。正しいことにゆうきをだしていけるといいですね。

教師の意図

勇氣について具体的に考えられているので、本児の考える勇氣を、正しいと思うことへの勇氣と言い換えて、本児の考えを肯定し励ましたい。

②道徳科の授業 12月
教材名:『ほくにできること』
内容項目: B 親切、思いやり

授業での児童の振り返り

しんせつにすればいろんな人がよるこんでくれるとおもったけど、やるのはちょっとはずかしいな。しんせつをどうやってするのかかわったから、はずかしいけどやってみようとおもいます。

教師のコメント

たしかに、しっている人だけじゃなくていろんな人にするのははずかしいときもあるよね。でも、それでもやってみようかなとおもえたことは、ステキなことだとおもいます。がんばって。

教師の意図

自分の気持ちを素直に表現しているので、そこに共感し、それでもやってみよう前向きに考えられていることを賞賛し、励ましたい。

③2学期の評価

(例)

自分自身の生活にたらして考える中で、「自分は登場人物のようにすることは難しいかもしれない」と素直な気持ちを書いていました。
身近な人に支えられていることに気付いて、「でも頑張ってやってみたいな」と前向きに考えることができました。



評価例 (4) 邑楽町教育委員会(中学校)

ポートフォリオ形式のワークシートによる道徳科評価の例

ローテーション道徳(複数の教員による授業)には、評価の難しさがあります。そこで、ポートフォリオ形式で授業者が生徒の振り返りに対してコメントします。その際、以下のA、Bの視点に対するコメントを赤と青で記述し、大きくりなまとまりを踏まえた評価へとつなげていきます。

- A: 一方的な見方から多面的・多角的な見方へと発展している内容(赤で記述)
- B: 道徳的な価値の理解を自分との関わりで深めている内容(青で記述)

道徳 振り返りシート 2学期 NO.1

姓 名 氏 名

みちしるべ ~心の成長を記録しよう~

内容	自己評価	振り返り	先生から一言
14	自分の考えが伝わったか		
15	A・B・C・D 自分の考えが伝わったか A・B・C・D		

1時間ごとのワークシートには記入せず、ここへ記入させる。この記述を見取り、評価材料を蓄積していく。

生徒が○を付け自己評価する。(教師による評価とは関係ない。)

生徒の記述や授業の様子から、認め・励ます一言を記入する。

内容項目(1~22)を教師から伝えて記入させる。

生徒の記述の見取りとコメントの例A

内容	感想(これまでの生活や友達との考え、資料から感じたこと、など)	先生から一言
④	自分を花に例えたら、一番の上目である。その存在。尊敬される必要は存在である。感じたら友達も「根」と言っていた。友達も、友達にも、友達にも存在する。自分も。	友達の考えが 受け入れられて 嬉しい。自分

生徒宛のメッセージの意図

班員と互いの考えを交流させる学習活動を通じ、他者の考えを取り入れ考えを深めることができている(他者理解ができている)ので、生徒の学習状況を認めるコメントを与えた。

他の指導者宛のメッセージ: この子は友達のことを取り入れながら考えることができている。

生徒の記述の見取りとコメントの例B

内容	感想(これまでの生活や友達との考え、資料から感じたこと、など)	先生から一言
⑤	チームは1人1人が自分の役割をしっかりと果たすことが大切だ。自分の役割をしっかりと果たすことが大切だ。自分の役割をしっかりと果たすことが大切だ。自分の役割をしっかりと果たすことが大切だ。	知識を頼りに 正確に考え 正しい考え

生徒宛のメッセージの意図

道徳的な価値を実現することの難しさを自分との関わりを通して考えられている(人間理解ができている)ので、生徒の学習状況を認めるコメントを与えた。

他の指導者宛のメッセージ: この子は価値を実現することの難しさにも正面から向き合うことができている。



ふかめよう! 道徳科 実践編



本資料は、県教育委員会がこれまでに作成した「はじめよう! 道徳科」、「ふかめよう! 道徳科」、「はばたく群馬の指導プランII」を踏まえ、以下の内容を紹介したものです。

- ・文部科学省・県教育委員会の指定地域における、指導と評価の一体化や大きくりなまとまりを踏まえた評価についての実践例
- ・道徳教育研究協議会で出された、各学校で行っている評価のための工夫例

各学校や児童生徒の実態に応じて、指導と評価を行うことが大切です。



道徳教育と道徳科の評価

道徳教育

教育活動全体で見られた児童生徒の道徳的な行為を評価

行動の記録

総合所見及び指導上参考となる諸事項

道徳科

児童生徒の学習状況及び道徳性に係る成長の様子を評価

評価の公的な文書である「指導要録」への記述

群馬県 道徳科

検索

実践例① 「小学校 2年」

邑楽町教育委員会（小学校）の例



年間指導計画、学習指導要領等で指導内容や系統を確認

C 公正、公平、社会正義

「自分の好き嫌いとらわれないで接すること。」

ねらいと評価の視点を決定



- 【ねらい】 あい子さんとななみさんに対するゆかさんの態度の問題点について考えることを通して（**主な学習活動**）、自分の好き嫌いとらわれず、誰に対しても分け隔てなく公平に接しようとする態度を養う。
- 【評価の視点】 あい子さんとななみさんに対するゆかさんの態度について考えることを通して、どんな相手にでも公平な態度や声かけをする大切さについて、自分との関わりで、多面的・多角的に考えている。（方法：発言、ワークシート）

事前準備

主な学習活動で見られる学習の状況を評価の視点としています。

主題名 こうへいな たいど 内容項目 C 公正、公平、社会正義 教材名 「ドッジボール」

過程 主な学習活動（○発問 ◎中心発問 ◇補助発問）

導 入	<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。</p> <p>○良い言葉・悪い言葉と聞いて、どんな言葉が思い浮かびますか。 ○ドッジボールの時に出てくる良い言葉と悪い言葉は何でしょうか。</p>	アンケート結果▶ 
展 開	<p>2 教科書の教材文の範読を聞く。</p> <p>○ゆかさんは、どうしてななみさんと同じチームになって「少しいやだな」と思ったのでしょうか。 S: 仲良しの友達じゃないから。 S: ななみさんは、運動が苦手だから。 ◇この状況は、仲間はずれでしょうか。 めあて:心のなかまはずれについて考えよう。</p> <p>3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。</p> <p>○ゆかさんは、あい子さんに「おしかったね。」と言い、ななみさんには「ちゃんとにげてくれないと、まげちゃうよ。」と言いました。それぞれ言われた人の気持ちを考えましょう。 ◎なぜかける言葉が違ってしまったのですか。 S: 仲良しの友達と仲良しじゃない友達だから。 S: ゆかさんはたまたま当たっちゃったけれど、ななみさんは運動が苦手だから。 S: 心の中で仲間はずれをしまっているから。 ◇これは誰のために言った言葉でしょうか。 ◇アンケートで「気にしない」と答えた人は、どう思いますか。</p>	 ▲ペアでの意見交流
	<p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。</p> <p>○ゆかさんはどうしたら良かったでしょう。 S: 注意するならみんなにもすれば良かった。 S: ななみさんにも優しい言葉をかければ良かった。 ◇そうするとどんな良いことがあるのかな。 S: 悲しい気持ちになる人がいなくなる。 S: 聞いている人も良い気持ちになる。</p>	
終 末	<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。</p> <p>○今日の道徳の授業の振り返りを書きましょう。 S: 悪い言葉を使うと嫌な気持ちになってしまうから、良い言葉をみんなに使いたい。 S: 誰が聞いても良い気持ちになる言葉を使いたい。 S: 心で仲間はずれをしていると悪い言葉を使ってしまうから、心の仲間はずれをしないようにしたい。</p>	

指導のポイント

授業

アンケート結果の提示と活用

- 自分のこととして課題に関心をもてるように、事前に良い言葉と悪い言葉についてのアンケートをとり、結果を提示する。
- ドッジボールの場面で、「ちゃんとにげてくれないと、まげちゃうよ。」と言われたときの気持ちを聞いておき、中心場面で活用する。

評価の視点に関連

教材文の提示

- 内容を捉えやすくするため、教材文を読む前に登場人物を挿絵で紹介しておき、範読後に、人物像を確認する。
- ゆかさんの「少しいやだな」という気持ちの理由を問うことで、問題意識をもてるようにする。

ペアでの意見交流

- 多面的・多角的に考えられるように、中心発問についてペアで意見交流させる。相手を代えて、いろいろなペアで交流させる。

評価の視点に関連

中心発問と補助発問

- 中心発問では、言葉かけの違いの理由を考えることで、心の中の差別に気付けるようにする。
- 「それは誰のためか」、「そうするとどうなるか」などの補助発問をすることで、一人一人の考えを深められるようにする。

評価の視点に関連

本時における学習状況の見取り

児童のワークシートの記述(例)

まおさんみたいによい言葉をつかうと、言われた人をえがおにして、自分もえがおになると思った。わたしもこれからは、よい言葉をつかって友だちをえがおにしたい。

教師の見取り(例)

友達に良い言葉を使うことについて、自分の生活に照らし合わせながら、そのよさを考えていた。

評価の視点をもとに学習状況を見取りますが、他にも児童のよさがあらわれた場面は、記録しておきます。

評価

毎時間の授業の記録やワークシートの記述を蓄積

最近の授業では、登場人物の立場に立って考えることができているな。でも、いろいろな人の立場で考えることのできる児童は、まだまだ少ないな。



次の授業では、役割演技を取り入れて、いろいろな人の立場で考えられるように工夫してみよう。

大くりなまとまりを踏まえた評価

毎時間の見取りを生かして授業を改善していくことにより、意図的・計画的に一人一人のよさを認める評価をすることができます。

実践例② 「小学校 4年」

邑楽町教育委員会（小学校）の例



事前準備

年間指導計画、学習指導要領等で指導内容や系統を確認

A 個性の伸長

「自分の特徴に気づき、長所を伸ばすこと。」

ねらいと評価の視点を決定

- 【ねらい】 自分さがしをする「わたし」の行動や気持ちについて考えることを通して（主な学習活動）、人は成長することができるということに気づき、自分を伸ばしていこうとする態度を養う。
- 【評価の視点】 主人公の行動や気持ちの変化を考えたり、長所についての考えをグループで交流したりすることで、今まで気付かなかった自分のよさや、短所を乗り越えようとするということについて、自分との関わりで考えている。（方法：発言、道徳ノート）

主題名 長所を伸ばす 内容項目 A 個性の伸長 教材名 「つくればいいでしょ」

過程 主な学習活動（○発問 ◎中心発問 ◇補助発問）

導入

1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。

- 自分の長所・短所はありますか。それはどこですか。
S：長所より短所がある人の方が多いな。
S：長所ってあまり見付からないな。

Q自分の長所はありますか？
ある 6人 ない 12人
Q自分の短所はありますか？
ある 12人 ない 6人

▲アンケート結果

めあて：長所を見付けるために大切なことは何だろう。

展開

2 教科書の教材文の範読を聞く。

S：主人公は自分に長所がないと思っているのだな。私と同じだな。

3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。

- 友達の名前は何でしょう。
S：歌が上手い。リコーダーが上手い。走るのが速い。
◇どうしてそれが長所だと思っているのでしょうか。
S：みんなより優れているから。
○「わたし」は、お母さんに「つくればいいでしょ」と言われて、どう感じているのでしょうか。
S：何で、教えてくれないの。
○「わたし」は、どうして長距離の練習をやめなかったのでしょうか。
S：どんどんタイムが良くなってきて、うれしかったから。
S：すぐにやめたらいつもと変わらないから。

- S：愛子さんも頑張っているの、わたしも頑張れるかもしれないと思ったから。
◎「わたし」はお母さんに前に言われた「つくればいいでしょ」について、今度はどう思ったでしょう。
S：お母さんが言っていたことは正しかった。
S：長所は自分でつくることができる。
◇「わたし」の長所は、「わたし」が見付けた友達の長所と同じですか。
◇「わたし」のような長所が、自分にはあると思いますか。

グループでの
意見交流



4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。

- 長所を見付けるために大切なことは何だろう。
S：自分の弱い所を直そうとする。
S：友達と比べるのではなく、自分の良い所を見る。

終末

5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

- 「わたし」から学んだこと、感じたことについて書きましょう。
S：人と比べなくても、自分の良い所はあるんだと思った。
S：苦手なことでも、努力したら得意になって、長所になることもあることが分かった。

指導のポイント

授業

アンケート結果の提示

- 自分のこととして課題に関心をもてるように、事前に長所と短所についてのアンケートをとり、結果を提示する。
○アンケート結果を比較することで、長所より短所があると答える人が多いことから、長所が自分では見付けにくいことに気付かせ、問題意識をもてるようにする。
○主人公に自分を置き換えて考えられるように、主人公の思いとアンケート結果を比較し、共通点を確認する。

評価の視点に関連

グループでの意見交流

- 多面的・多角的に考えを深めることができるように、中心発問について、グループで意見交流させる。

評価の視点に関連

中心発問と補助発問

- 中心発問では、長所をつくることに対する主人公の気持ちの変化を考えられるように、母から言われた言葉の意味をもう一度問う。
○「わたし」の長所と「わたし」が見付けた友達の長所を比較させることで、長所に対する一人一人の考えを深めさせる。
○自分自身との関わりで考えられるように、自身の内面的な長所について考えさせる補助発問をする。

評価の視点に関連

本時における学習状況の見取り

児童の道徳ノートの記述と教師の見取り(例)

【道徳ノートの記述】

わたしも今まであまり長所がないと思っていたけれど、これからは長所をもっとつくりたいです。目標ややりたいことを見つけていって、できることをもっとふやしていきたいです。

【教師の見取り】

長所と短所について、友達の意見も取り入れながら、自分のこととして前向きに考えていた。

評価

毎時間の授業の記録や道徳ノートの記述を蓄積します。各学期末に、学期を振り返る時間を設定し、大きくりなまとまりを踏まえた評価に生かしました。

【道徳ノートの記述】
今まであまりきまりについて考えていなかった。これからは、きまりだからではなく、周りの人のことを考えてすごしたいです。

【教師の見取り】
きまりについての問題に対し、悩みながらも一生懸命に自分のこととして考えていた。

大きくりなまとまりを踏まえた評価

1学期の授業の様子や道徳ノートを見ると、どの授業でも自分のこととして捉え、考えることができているようだ。



【評価(例)】

いつも「自分だったら」という視点をもって考えることができました。特に、「つくればいいでしょ」という授業では、長所をつくることに気づき、自分の長所を増やしていきたいという気持ちをノートに書いていました。

どうとくかえ 道徳ふい返しワークシート

○一番心に残った授業はどれですか？

1学期	題名(つくればいいでしょ)
理由	自分の長所は自分でつくれるということを知り、わたしも自分の長所をつくってふやしたいと思ったからです。

各学期を振り返るワークシート(例)

各学校における評価の工夫例(小学校等道徳教育研究協議会より)

ここでは、小学校等道徳教育研究協議会の班別協議で出された、各学校で行っている評価のための工夫例を一部紹介します。

道徳科の評価は、妥当性、信頼性等を担保するためにも、学校として集める資料や評価方法を明確にしておくことや、評価の視点などについて、共通理解を図ることが大切です。

Q1 学校として組織的に取り組むためにどのような工夫をしていますか？

各学年で作成した評価文や児童の記述の見取りを持ち合い、校内で見合う研修をしています。このことで、学年間の共通理解が図られました。

校内で共通の評価文例を作成し、それを参考に担任が一人一人の児童に合わせた文を作成しています。

全校で統一した道徳ノートを持たせています。学年の実態に合わせて、直接書かせたり、ワークシートを貼らせたりして活用しています。

ローテーション授業をし、複数の教員で多面的・多角的に児童の様子を見取るようにしています。

書くことが苦手な児童や発言が少ない児童の評価方法について、校内や学年で話し合い、共通理解を図りました。

Q2 児童の学習状況を把握するためにどのような工夫をしていますか？

ノートやワークシートの記述を蓄積して評価に生かしています。

見取りができていない児童がいる場合、活躍できる場を授業で意図的に設定し、その様子を評価します。

全体での発言が少ない児童は、ペアやグループでの発言を聞き取るようにしています。

小学校1年生の最初は、書くことが難しいため、ハートに色を塗ったり、心情円盤で表現したりできるようにしています。

学習状況を見取るため、名簿に評価の視点を書いた簡単なチェックシートを用意しています。

授業中に見取った学習状況は、座席表に記録するようにしています。

児童の考えを板書し、ネームプレートを貼ります。授業後に板書を写真で撮って、個々の児童のよさを記録しています。

Q3 大きくりなまとまりで評価するときどのような工夫をしていますか？

通知表では、学期ごとに評価の視点を決めて記述しています。
例) 1学期:学習状況
2学期:多面的・多角的
3学期:自分との関わりで

通知表は保護者に分かりやすいよう、「大きくりな学習状況」+「突出した授業の様子」を意識して書いています。要録は、大きくりな成長の様子を記述するようにしています。

ワークシートを蓄積するとともに、学期の終わりには児童が振り返って自己評価をする時間を設定しています。